

さわがせ

号 数 第 3 5 6 号
発行日 令和 8 年 4 月 29 日
発行所 金 光 教 韃 教 会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail: utubol905@gmail.com



勸学祭に参拝した子どもたちが玉串を奉奠しました（4月12日）

親神様の願いを受けて

教会長 鍵 山 公 生

真の信心を求めて

本日は、令和8年度 韃教会 天地金乃神大祭をお迎えさせていただき、真におめでとうございます。皆様とともに親神様に心からお礼の心を現したいと存じます。

教祖様がお教えくださった金光様の道の真を、皆様に十分お伝えすることができてきたかと反りみまして、現実におかげを被って来られた方も多くおられ、また中には子孫や世間の人々に正しく伝えることが出来ない信奉者も居られます。そこで今までおかげを受けてこられた方が、どのようなご縁をいただかれ、真の信心を進め歩んで来られたかを紐解かせて頂いて、私たちもお一層おかげを頂いてまいりたいと思い、ここにその体験記を記したいと思います。



金光教のお道にご縁を頂いたきっかけ

昭和初期のことです。ある女性に子どもが宿り、無事に誕生しました。女の子で、「廣子」と名付けられました。しかし、この子の存在を他人に公表できない事情があり、母親は一人で育てることが難しく、途方に暮れていました。

そんな時、いつも親しくしている近所のおばさんに相談しました。おばさんは快く話を聞き、自分が参拝している金光教の教会を紹介しました。

「金光さんにお参りしてお願いしたら、困ったことは何でも聞いてくれる。おかげをいただけるから、一緒に行きましょう」

おばさんの言葉に導かれ、女性は幼い廣子を抱いて教会へ向かいました。初めての参拝で不安もありましたが、心優しいおばさんが親身になって勧めてくれるので、思い切って足を運んだのでした。

教会での出会い

教会に着くと、おばさんが女性に代わって先生に事情を説明しました。「この子を大切に育ててくださる方がいれば……」先生はまず母子の名前を尋ね、ご神前に進まれました。「天地金乃神様、生神金光大神様。ここにお引き寄せいただきました母子のお届けを申し上げます。可愛い女兒をお授けいただき、ありがとうございました」さらに続けて、「この幼児には事情があり、母親の元で育てられません。しかし、せつかくお授けいただいたこの子が、どうぞ健康に育ち、世のお役に立つ人になりますように」と、大きな声で御祈念されました。母親は幼い廣子を抱きながら、涙を流して心の中で祈りました。

「どうか、よい育ての親に巡り会えますように」

子宝を願っていた夫婦

その広前には、先に参拝していたご夫婦がいました。結婚して数年、子どもに恵まれず、「子宝を授かりますように」とお届けしたところでした。

先生はそこへ声をかけました。「あんたら、ええ時にお参りしてきたなあ。この子を育てさせてもらったらどうや」ご夫婦は驚きましたが、すぐに深くうなずきました。「これはおかげや。偶然ではなく、神様のお指し向けです。ありがたいことです」そして即座に、「お許しがあれば、この子を育てさせていただきたい」と申し出たのでした。

日々の信心と廣子の成長

それから養父母は毎日熱心に参拝するようになりました。「神様から授けていただいた子宝を、人のお役に立つ人に育てたい」その願いを胸に、廣子ちゃんを



おんぶして、少し成長してからは手をつないで、徒歩で参拝を続けました。

教会では朝早くから参拝し、御祈念をし、その後は庭の掃除などをしました。参拝者が帰った後、先生とお火鉢のそばでお話を伺うこともありました。

先生からの教え

ある時、廣子ちゃんは先生に尋ねました。「神様にお願いするとき、どう言って拝んだらいいのですか」先生は穏やかに答えました。

「天地の神様には、お礼させてもらうことがたくさんある。普段当たり前と思っていることも、できなくなって初めて“おかげをいただいていた”と気づくんや。だから一つひとつお礼をすることが大切や」「お願いしておかげをいただいたら、そのありがたさを忘れんようにすることや。お礼を忘れたら、おかげはいただかれへん」廣子ちゃんはさらに尋ねました。

「お礼をすると言っても、どうしたらいいのですか」先生は続けました。

「あんた、寝ている間に疲れを取ってもらい、今朝も目覚めさせてもらったからこそ、こうしてお参りできてるんやろ。『今日も命を継いでもらいました。ありがとうございます』とお礼するんや」さらに、家の近くの卸市場の話をされました。「朝早くから魚や野菜を運んでくる人、売る人、買う人……その人らのおかげで大阪の人らは食べていける。『やかましい』なんて思ったらあかん。皆さんのおかげや。ありがたいと思わな」

そして最後にこう教えられました。

「『今日もお日照りをいただきありがとうございます。どうぞ人のお役に立てる体になりますように』と拝みなはれ。不足を言わず、ありがたいことを一つひとつ喜ぶんや」

廣子ちゃんの心の成長

廣子ちゃんは、心から先生におすがりして、お礼のできる一日にならせてもらいたい。そして何をすれば自分は、神様に喜んで頂けるような一日を過ごせるか」と考えて、天地の神様に手を合わせ、「きょう一日、神様に御礼の信心をさせてください」とお願いできるようになっていきました。

子供会に参加

その後も廣子ちゃんと養父母は日参を続けました。教会への参拝はもちろん、時にはご本部へもお礼参拝し、金光様を生神様として崇め、教会長先生のお取次ぎを大切にいただいていたいました。

幼い頃の廣子ちゃんは体が弱い子でしたが、「健康な体になりたい」と願い、雨の日も晴れの日も苦にせず日参を続け、徳を積んでいきました。

ある日、先生に「もう少し元気な子になりますように」とお願いしていると、先生はこう勧められました。「教会に子供会ができたから、参加したらええ。同じ年頃の子が集まってると、きっと鍛えられて元気になるで」

子供会では歌を歌ったり、ゲームをしたり、時には神戸の甲山へハイキングに行ったりと、たくさんの子どもたちと遊びました。人前で歌を歌うこともできるようになり、廣子ちゃんは少しずつ明るく、たくましく育っていきました。

成人になって

18歳を過ぎる頃には、廣子さんは見目麗しく成長しました。心齋橋筋のお菓子屋さんに店員として勤めると、たちまち「看板娘」として評判になり、お店はますます繁盛しました。やがて、お店の重役に見初められ、お嫁さんとして迎えられることになりました。お店は京都や東京にも支店を出し、廣子さんもついに東京へ移り住むことになりました。

仕事の都合で大阪に戻ることがあると、必ず教会に参拝し、ご家族のことを丁寧にお届けしました。やがて二人のご子息にも恵まれ、それぞれにおかげをいただき、廣子さんはお礼を欠かすことがありませんでした。

幼い頃には辛いことも多くありました。しかし先生のお取次ぎをいただき、「何があってもお参りするこっちゃ。問題があっても、何でも神さんにお届けしてさせてもらうんやで」という教えを素直に守り続けました。

その信心によって多くのおかげをいただき、廣子さんは幸せな人生を歩むことができたのでした。

信心をさせていただく理由は

私たちはなぜ信心するのでしょうか。この世に生を受けた以上、誰もが幸せを願うものです。しかし、確かな目的を持たずに人生を過ごすのは、あまりにも惜しいことではないでしょうか。

また、自分だけの幸せを追うのではなく「神様の願いは何なのか」を常に問い求め、周りの人々や世界中の人々と幸せを分かち合いたいものです。今、地球上では悲しい戦いが続いています。戦禍に苦しむ人々が、一日も早く心安らかに眠れる日が来ることを願わずにはられません。

信心の道を迷わず失わず末の末まで教え伝えよ

日々に天地の神様のおかげをいただき、お世話になっていることに気づき、一つひとつお礼を申し、生活の中のことをなんでも正直にお届けさせていただくことです。そして家族中の人々が共に神様のお話を聞かせてもらい、素直になって教えを守らせていただくことが大切です。

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして
ご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。
(5月24日、6月21日、午前10時30分より)

春の合同墓前祭 (3月29日)

温かい日差しの中、春の合同
墓前祭が、瓜破霊園において執
り行われました。



4月29日（水）午前10時30分より

天地金乃神大祭奉行

祭典後説教、講題：「未知なる道」

講師：河内松原教会教会長 前田 俊一先生

令和8年5月

2日（土）	ご本部月参拝	午前6時教会出発
10日（日）	月例祭執行	午前10時30分
10日（日）	大阪教会大祭	午後2時
15日（金）	信徒共励会	午前10時
23日（土）	堺大浜教会大祭	午後2時
24日（日）	月例祭並びに月例霊祭執行	午前10時30分



6月

1日（月）	月例祭執行	午前10時30分
7日（日）	うりわり墓参	午前7時
13日（土）	月例祭執行	午前10時30分
14日（日）	ご本部 教団独立記念祭参拝	午前7時教会出発
19日（金）	信徒共励会	午前10時
21日（日）	月例霊祭並びに夏越の感謝祭執行（人形行事）	午前10時30分

7月

1日（水）	月例祭執行	午前10時30分
-------	-------	----------

勸学祭

4月12日

子どもたちがこれまで、無事成長させていただいたことの御礼と、世のお役に立つ人にならせていただけますよう祈念させていただく祭典、「勸学祭」が仕えられました。祭典後、直会として学用品を頂きました。また祭典後境内において喜びの集いとして、焼肉パーティーが行われました。

